令和6年度事業報告

{ 自 令和6年 1月 1日 }
{ 至 令和6年 12月 31日 }

一般社団法人 日本養蜂協会

I 会議

1. 総会

令和6年度（第83回）定時総会

日 時：令和6年2月20日（火）13:00～15:00

場 所：東京都千代田区大手町 KKRホテル東京「瑞宝の間」

議 長：土屋 勲（岩手県）

議事録署名人：島田誠一（栃木県）、新屋成登（鹿児島県）

出席議決権数：総数47会員のうち47会員（書面等出席9団体）

報告事項

- （1）令和5年度事業報告に関する件
- （2）令和6年度事業計画に関する件
- （3）令和6年度収支予算書に関する件

議事

第1号議案：令和5年度貸借対照表及び正味財産増減計算書承認の件

第2号議案：令和6年度会費の賦課方式及び基準に関する件

2. 理事会及び委員会

（1）令和6年度第1回（第287回）理事会

日 時：令和6年2月1日（木）13:00～16:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、長沼久雄、望月靖夫

出席者数：10名

議 事

①事業報告及び決算の承認について

令和6年度（第83回）定時総会等の運営について

②大阪府養蜂農業協同組合及び山口県養蜂農業協同組合の退会並びに両団体の後継団体の入会承認について

③諸規程の改正について

(2) 令和6年度第2回(第288回)理事会

日 時：令和6年4月9日(火) 10:00～16:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、望月靖夫、枝次秀樹

出席者数：13名

議 事

- ①物資斡旋事業関係
- ②蜂蜜中の残留農薬について及び令和5・6年度JRA畜産振興事業について
- ③農薬によると思われるミツバチの斃死分析調査について
- ④令和6年能登半島地震による被災者義援金の取扱いについて

(3) 令和6年度第3回(第289回)理事会

日 時：令和6年8月29日(木) 10:00～16:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、長沼久雄、望月靖夫、枝次秀樹

出席者数：15名

議 事

- ①日蜂協ブロック大会開催について
- ②令和6年度種子の斡旋配布について
- ③物資斡旋事業関係
- ④山口県養蜂農業協同組合後継団体の入会承認等について
- ⑤岐阜県中村源次郎氏の叙勲受章への日蜂協表彰について
- ⑥ミツバチサミットへ2025への要請について

(4) 令和6年度第4回(第290回)理事会

日 時：令和6年12月24日(火) 10:00～16:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

議 長：羽佐田康幸

議事録署名人：羽佐田康幸、柳下浩幸、望月靖夫、枝次秀樹

出席者数：14名

議 事

- ①令和6年度各ブロックからの意見等について
- ②役員報酬規程の改正等
- ③令和7年度会員割会費の引き上げ等(案)について
- ④物資斡旋事業関係
- ⑤令和7年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

⑥令和7年度日蜂協表彰候補者の選考

⑦能登半島地震被災者義援金の取り扱いについて

3. 監事監査

(1) 令和5年決算定期監査（令和5年1月1日～令和5年12月31日）

日 時：令和6年1月25日（木）

出席者：（監 事）長沼久雄、望月靖夫、枝次秀樹

（執行部）副会長 羽佐田康幸

（事務局）常務理事 沖 浩幸、総務課長 競まゆみ

（税理士）小林昌孝

(2) 令和6年中間定期監査（令和6年1月1日～令和6年6月30日）

日 時：令和6年7月23日（火）

出席者：（監 事）長沼久雄、望月靖夫、枝次秀樹

（執行部）副会長 柳下浩幸

（事務局）常務理事 沖 浩幸、総務課長 競まゆみ

（税理士）小林昌孝、岩田博美

4. 会員の状況

大阪府養蜂農業協同組合は退会し、大阪府養蜂組合が後継団体として、山口県養蜂農業協同組合は退会し、山口県養蜂組合が後継団体として、各々、令和6年4月1日から日蜂協に入会している。

II 補助事業

1. 国庫補助事業 養蜂等振興推進事業

(1) 令和5年度養蜂等振興強化推進（全国公募事業）

①【全国対象】養蜂技術指導講習会

日 時：令和6年1月15日（月）13:30～16:30

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室よりオンライン配信

参加者：蜜蜂衛生・飼養管理等の指導者等（行政関係者及び日蜂協会員等）

講 義：1. 座学講義1「ミツバチの生物学を養蜂に生かす」

講師＝玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

2. 座学講義2「養蜂における衛生管理 消毒技術」

講師＝玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

3. 座学講義3「養蜂における衛生管理 ミツバチヘギイタダニ防除技術」

講師＝玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

4. 情報提供「令和4年度及び令和5年度持続的生産強化対策事業のうち養蜂等振興強化推進事業について」

情報提供者：一般社団法人日本養蜂協会

5. 質疑応答

②第2回蜂群配置に関わる蜜源探索範囲特定技術及びマッピング手法の開発事業担当者委員会

日 時：令和6年1月19日（金）13:30～15:30

場 所：リモート会議（主催：一般社団法人日本養蜂協会）

委 員：

岩手大学森林科学科 教授 真坂一彦

岐阜県立森林文化アカデミー 客員教授 小田忠信

アジア航測株式会社国土保全コンサルタント事業部環境部総合環境課

係長 舘野真澄、技師 安田正次

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

栃木県養蜂組合 組合長 島田誠一

来 賓：

農林水産省畜産局畜産振興課技術第二班

課長補佐 信戸一利、養蜂係長 平田真基

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 沖 浩幸

議 事：

蜂群適正配置に向けたマッピング手法の開発現地調査結果について

③第2回養蜂等振興強化推進事業推進委員会

日 時：令和6年3月13日（水）13:30～16:30

場 所：リモート会議（一般社団法人日本養蜂協会）

委員長：玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

委 員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門高度飼養技術研究領域スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄、主任研究員 荻原麻理

農業環境研究部門農業生態系管理研究領域生物多様性保全・利用グループ

グループ長 大久保 悟、上級研究員 前田太郎

生物機能利用研究部門昆虫利用技術研究領域昆虫デザイン技術グループ

上級研究員 畠山正統、主任研究員 横井 翔

公益社団法人福岡県畜産協会経営指導部 参事 浅田研一

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

玉川大学農学部 教授 佐々木 謙〈欠席〉、教授 浅田真一〈欠席〉

玉川大学学術研究所ミツバチ科学研究センター

教授 佐々木哲彦、教授 原野健一

筑波大学生命環境系 助教 横井智之

岩手大学森林科学科 教授 真坂一彦

東京農工大学農学部 教授 佐藤俊幸

広島大学先進理工系科学研究科 教授 石井 抱、助教 島崎航平

岐阜県立森林文化アカデミー 客員教授 小田忠信

アジア航測株式会社国土保全コンサルタント事業部環境部総合環境課

係長 舘野真澄、技師 安田正次

アリスライフサイエンス株式会社 マーケティング部

プロダクトマネージャー（送粉昆虫担当） 光畑雅宏

アピ株式会社蜂産品特販部 ミツバチ課長 今井弘一

片倉工業株式会社片倉養蜂場 中村文男〈欠席〉

株式会社アドダイス CEO 伊東大輔

株式会社アグリクリニック研究所

代表取締役 村井 保、技術・営業担当 宮田恵佑

バイオプロジェクト株式会社 代表取締役 前田昌調

トーヨー工業株式会社第2営業本部東海営業部焼津営業所兼沼津営業所

営業所長 森田光洋

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

北海道養蜂協会 副会長 斉藤直也〈欠席〉

三重県養蜂協会 会長 水谷俊介

広島県養蜂組合 組合長 光源寺毅寿

熊本県養蜂組合 組合長 西岡千年

栃木県養蜂組合 組合長 島田誠一

来 賓：

農林水産省畜産局畜産振興課技術第二班

課長補佐 信戸一利、養蜂係長 平田真基

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 沖 浩幸

議 事：

令和5年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募）の各事業の報告

（2）令和6年度養蜂等振興強化推進（全国公募事業）

①第1回蜂群適正配置に関わる蜜資源量の推定技術の開発および収量調査事業担当者委員会

日 時：令和6年5月21日（火）13:30～15:30

場 所：リモート会議（一般社団法人日本養蜂協会）

委 員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門高度飼養技術研究領域スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄、主任研究員 荻原麻理

基盤技術研究本部 農業情報研究センター AI研究推進室

主任研究員 岸 茂樹

農業環境研究部門 農業生態系管理研究領域長 大久保 悟〈欠席〉

筑波大学生命環境系 助教 横井智之

プライムデリカ株式会社 商品本部アグリ・技術開発推進部

係長 中前源蔵、主任 鶴澤 良

来 賓：

農林水産省畜産局畜産振興課技術第二班

課長補佐 信戸一利、養蜂係長 平田真基

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 沖 浩幸

議 事：

蜂群適正配置に関わる蜜資源量の推定技術の開発および収量調査事業計画額について

事業の進め方等について（（国研）農研機構）

②第1回養蜂等振興強化推進事業推進委員会

日 時：令和6年6月28日（金）13:30～16:30

場 所：リモート会議（主催：一般社団法人日本養蜂協会）

委員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門高度飼養技術研究領域スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄、主任研究員 荻原麻理

基盤技術研究本部 農業情報研究センター AI 研究推進室

主任研究員 岸 茂樹

農業環境研究部門 農業生態系管理研究領域長 大久保 悟〈欠席〉

農業環境研究部門農業生態系管理研究領域生物多様性保全・利用グループ

上級研究員 前田太郎

生物機能利用研究部門昆虫利用技術研究領域昆虫デザイン技術グループ

グループ長補佐 畠山正統、主任研究員 横井 翔

動物衛生研究部門 動物感染症研究領域 細菌グループ長 高松大輔

一般財団法人生物科学安全研究所 主任研究員 中村佳子

公益社団法人福岡県畜産協会経営指導部 参事 浅田研一

玉川大学農学部先端食農学科 教授 中村 純

玉川大学農学部 教授 佐々木 謙、教授 浅田真一

玉川大学学術研究所ミツバチ科学研究センター

教授 佐々木哲彦、教授 原野健一

筑波大学生命環境系 助教 横井智之

東京農工大学農学部 教授 佐藤俊幸〈欠席〉

プライムデリカ株式会社 商品本部アグリ・技術開発推進部

係長 中前源蔵、主任 鶴澤 良

アピ株式会社蜂産品特販部 ミツバチ課長 今井弘一

片倉工業株式会社片倉養蜂場 中村文男

株式会社アドダイス CEO 伊東大輔〈欠席〉

株式会社アグリクリニック研究所 代表取締役 村井 保、

技術・営業担当 宮田恵佑

株式会社アグリマート営業開発 チームリーダー 大川賢太郎

日本農薬株式会社研究本部総合研究所 テクニカルアドバイザー 坂井厚志

トーヨー工業株式会社第2営業本部東海営業部焼津営業所兼沼津営業所

営業所長 森田光洋

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸〈欠席〉

神奈川県養蜂組合 組合長 柳下浩幸

北海道養蜂協会 副会長 斉藤直也〈欠席〉

三重県養蜂協会 会長 水谷俊介

広島県養蜂組合 組合長 光源寺毅寿

香川県養蜂組合 組合長 中田茂富

熊本県養蜂組合 組合長 西岡千年

和歌山県養蜂協会 会員 横内信之〈欠席〉
鹿児島県養蜂協会 理事 西垂水栄作
沖縄県養蜂組合 事務局長 平良 拓

来 賓：

農林水産省畜産局畜産振興課技術第二班 養蜂係長 平田真基
事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 沖 浩幸

議 事：

令和6年度養蜂等振興強化推進事業（全国公募）の概要
今後のスケジュールについて

③酸化エチレンに代替する消毒方法検討事業担当者委員会

日 時：令和6年7月25日（木）13:30～15:30

場 所：リモート会議（主催：一般社団法人日本養蜂協会）

委 員：

一般財団法人生物科学安全研究所 主任研究員 中村佳子

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

動物衛生研究部門 動物感染症研究領域 細菌グループ長 高松大輔

公益社団法人福岡県畜産協会経営指導部 参事 浅田研一

三重県養蜂協会 会長 水谷俊介

オブザーバー：

住化エンバイロンメンタルサイエンス株式会社

薬事部 部長 西巻裕司

ホームプロダクツ開発部 グループリーダー 石川 純

アニマルヘルス営業部 田中拓馬

来 賓：

農林水産省畜産局畜産振興課技術第二班 養蜂係長 平田真基
事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 沖 浩幸

議 事：

酸化エチレンに代替する消毒方法検討事業について
新規殺菌剤の腐蝕病菌に対する殺菌効果試験（案）について

④養蜂に関する統計資料収集および各種情報のシステム化事業担当者委員会

日 時：令和6年10月11日（金）10:00～12:00

場 所：リモート会議（主催：一般社団法人日本養蜂協会）

委 員：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門高度飼養技術研究領域スマート畜産施設グループ

上級研究員 芳山三喜雄、主任研究員 荻原麻理

基盤技術研究本部 農業情報研究センター AI研究推進室

主任研究員 岸 茂樹

筑波大学生命環境系 助教 横井智之

愛知県養蜂協会 会長 羽佐田康幸

北海道養蜂協会 副会長 斉藤直也〈欠席〉

オブザーバー：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

畜産研究部門高度飼養技術研究領域スマート畜産施設グループ

テクニカルスタッフ 畦元裕也

来 賓：

農林水産省畜産局畜産振興課技術第二班 養蜂係長 平田真基

事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 常務理事 沖 浩幸

⑤【宮城】養蜂技術指導講習会

日 時：令和6年12月5日（木）14:00～16:30

場 所：宮城県仙台市 ホテル白萩

委 員：蜜蜂衛生・飼養管理等の指導者等（行政関係者及び日蜂協会員等）

講 義：1. 座学講義1「ミツバチの生物学を養蜂に活かす」

講師＝玉川大学名誉教授 中村 純

2. 座学講義2「ミツバチヘギイタダニの生物学」

講師＝玉川大学名誉教授 中村 純

3. 情報提供1「施設園芸（イチゴ）におけるミツバチの管理方法」

情報提供者：公益社団法人福岡県畜産協会 参事 浅田研一

4. 情報提供2「令和5年度及び令和6年度持続的生産強化対策事業のうち養蜂等振興強化推進事業について」

情報提供者：一般社団法人日本養蜂協会

5. 質疑応答

⑥【大分】養蜂技術指導講習会

日 時：令和6年12月16日（木）14:00～16:30

場 所：大分県別府市 亀の井ホテル別府

委 員：蜜蜂衛生・飼養管理等の指導者等（行政関係者及び日蜂協会員等）

※講義内容は【宮城】養蜂技術指導講習会と同じ。

(3) 令和6年度日本中央競馬会畜産振興事業

① 蜂蜜中残留農薬関連情報収集・活用促進事業推進委員会

日 時：令和6年8月7日（水）13:00～

場 所：リモート会議（主催：一般社団法人日本養蜂協会）

委 員：

玉川大学農学部 教授 佐々木 謙

佐野養蜂園 代表 佐野友治

東京農業大学農学部 教授 藤澤弘幸

独立行政法人農林水産消費安全技術センター農薬検査部 部長 入江真理
事務局：

一般社団法人日本養蜂協会 調査役 喜多祐丞、主任 廣濱清秀
議 事：

蜂蜜中残留農薬関連情報収集・活用促進事業の実施状況について

② J R A 畜産振興事業監査（令和5年度事業監査）

日 時：令和6年10月30日（水）10:00～15:00

場 所：東京都中央区 馬事畜産会館2階会議室

出席者：

公益財団法人全国競馬・畜産振興会

業務部 上席調査役 杉中 求、畜産振興課主任 後藤亜依子

総務部 経理課主任 樋渡なつ子

日本中央競馬会

サステナビリティ推進部社会貢献室長 田渕 寛、主任調査役 森 昌宏

一般財団法人日本養蜂協会

調査役 喜多祐丞、主任 廣濱清秀、主事 宮本 宏

Ⅲ 事業内容

1. 国庫補助事業

(1) 令和5年度養蜂等振興強化推進事業

① 全国公募

1月15日(月)に養蜂技術指導講習会を東京都中央区馬事畜産会館会議室よりウェブ会議システムを利用してライブ配信し、都内及びその周辺県から養蜂家及び地方公共団体の行政職員等が284名参加した。なお「養蜂技術指導手引書Ⅲ 養蜂における衛生管理-消毒技術(再改訂版)」及び「養蜂技術指導手引書Ⅴ 養蜂における衛生管理-ダニ防除技術(再改訂版)」「養蜂技術指導手引書2022 ミツバチを知るためのミツバチデータブック」「養蜂技術指導手引書2023 ミツバチの生物学を養蜂に活かす」を作成し、ホームページに掲載した。

また、3月13日に第2回推進委員会をウェブ会議システムを利用して開催し、7月末には令和5年度分の事業実施報告書を農林水産省畜産振興課へ提出した。

(2) 令和6年度養蜂等振興強化推進事業

① 全国公募

令和5年度に引き続き、令和6年度も当該事業に日蜂協が応募し、採択された。本年度は事業応募要件である、「養蜂関連データの蓄積・活用に向けた取組」「花粉交配用蜜蜂の供給体制の強化に向けた取組」「飼養衛生管理技術の向上に向けた取組」に沿って、「蜂群適正配置に関わる蜜資源量の推定技術の開発および収量調査事業」「養蜂に関する統計資料収集および各種情報のシステム化事業」「蜂群の低温管理による産卵停止技術の検証」「養蜂技術指導講習会実施事業」「ミツバチヘギイタダニ対策事業」「シュウ酸等実用化促進事業」「酸化エチレンに代替する消毒方法検討事業」「新規巣箱の導入による省力化等事業」「ミツバチの長距離トラック輸送法及び管理技術の検討」「オオスズメバチ追跡技術の検討」「蜜蜂の避暑対策試験事業」「蜜蜂用飼料非砂糖資材実証等事業」を実施することとし、6月28日(金)に第1回推進委員会をウェブ会議システムを利用して開催した。

② 地域公募

日蜂協ではできるだけ各都道府県会員団体に地域公募事業に応募していただきたいと考え、各都道府県における協議会の設立及び公募開始並びに追加公募について会員団体宛に通知し、日蜂通信及びホームページにも掲載した。

2. 競馬関係畜産振興事業への実施

① 令和6年度日本中央競馬会畜産振興事業

令和5年度に3年間事業として応募し採択された「蜂蜜中残留農薬関連情報収集・活用促進事業」を本年度も継続して実施した。事業内容は、①推進委員会開催等、②サンプル検体収集測定等事業を実施した。

② 令和6年度地方競馬全国協会畜産振興補助事業

令和5年度に3年間事業として応募し採択された「蜜源植物安定生産技術実証・普及事業」を、本年度も継続して実施した。事業内容は、①レンゲ害虫防除技術の実証（天敵蜂の増殖・放飼試験、レンゲの遅まき等による防除試験、天敵線虫による防除試験）、②蜜源樹木利用促進技術の普及を実施した。

3. 養蜂関連物資斡旋事業

(1) 養蜂飼料の合理的価格設定による定期的配給の実施

① 養蜂飼料価格安定基金について

令和5年越冬用飼料において、配給価格が養蜂用配合飼料価格安定基金運営規程（以下、「規程」という）第2条の基準価格（190円/kg）を上回ったことから、平成17年の基金設立後初めて発動され、補填金の支払いが行われた。なお、基金の残額の扱い等については、新たに規程を作成して特定資産として運用している。

② 養蜂飼料の配給実績

ア. 令和6年建勢飼料実績 [1月 - 4月]	341 t	対前年比	78.1%
令和5年	〃	437 t	対前年比 109.1%
令和4年	〃	400 t	対前年比 77.6%
イ. 令和6年越夏飼料実績 [5月 - 8月]	397 t	対前年比	71.4%
令和5年	〃	557 t	対前年比 82.8%
令和4年	〃	672 t	対前年比 98.5%
ウ. 令和6年越冬飼料実績 [9月 - 12月]	453 t	対前年比	92.9%
令和5年	〃	479 t	対前年比 83.1%
令和4年	〃	576 t	対前年比 86.2%
エ. 令和6年計	1,191 t	対前年比	80.9%
令和5年計	1,472 t	対前年比	89.3%
令和4年計	1,648 t	対前年比	88.4%

[参考] 令和元年～令和5年 年間配給実績

令和6年計	1,191 t	対前年比	80.9%
令和5年計	1,472 t	対前年比	89.3%
令和4年計	1,648 t	対前年比	88.4%
令和3年計	1,865 t	対前年比	94.2%
令和2年計	1,979 t	対前年比	91.6%
令和元年計	2,162 t	対前年比	107.7%

4. 組織強化事業

(1) 各種会議の主催等

総会、理事会、委員会等の組織活動に積極的に取り組んだ。

(2) 日蜂通信の発行

昭和 32 年から今日まで定期発行し、会員への活動状況及び養蜂に係る情報提供に取り組んできている。情報伝達の迅速化の為、ホームページを活用して電子版日蜂通信を年 4 回発行し、紙面版は年 6 回発行した。

(3) 日蜂協ブロック大会開催等会員養蜂家との協議

9 月～12 月に全国 9 ブロックにおいて日蜂協ブロック大会を開催し、事務局から事業報告及び事業方針等を説明して、参加者と意見交換を行った。

(4) 養蜂振興情報提供

① 農林水産省主催「蜂群の適正配置に向けた養蜂担当者ブロック会議」への参加

養蜂振興法の運用に関して都道府県ごとに環境が異なる中、養蜂家の形態は多様化しており、行政担当者及び養蜂組合関係者は年々対応が難しくなっているため、農林水産省では「蜂群の適正配置に向けた養蜂担当者ブロック会議」を以下のブロックで開催することとしたため、当協会会員団体も参加し、意見交換を行った。

ア. 北海道・東北ブロック (1 月 18 日・宮城県仙台市)

イ. 関東・北陸・東海ブロック (1 月 22 日・埼玉県さいたま市)

ウ. 東海・近畿・中国四国ブロック (1 月 30 日・大阪府大阪市)

エ. 九州・沖縄ブロック (1 月 24 日・熊本県熊本市)

② 農林水産省主催「全国養蜂担当者会議」への参加

4 月 23 日にオンラインビデオシステムにおいて「全国養蜂担当者会議」が開催され、農林水産省より養蜂振興法に係る農林水産省畜産局長通知等の改正及び令和 6 年度養蜂等振興強化推進（地域公募事業）の内容についての説明等があり、当協会会員団体も参加し、意見交換を行った。

③ 後継者・青年部支援

ア. 青年部育成費として、1 ブロック当たり 55 千円を支援した。

イ. 2 月 19 日に東京都中央区馬事畜産会館で全国養蜂青年部代表者会議が開催され、参加者の旅費等の補助として 1 ブロック当たり 45 千円を支援した。なお、会議には、来賓として日蜂協羽佐田副会長及び沖常務理事が出席した。

ウ. 12 月 10 日に大阪府大阪市で開催された第 6 回全国養蜂青年大会に 1,000 千円を支援し、来賓として日蜂協羽佐田副会長及び沖常務理事、中村理事が出席した。なお、青年大会では、中国地区養蜂成年部会より、スズメバチ防除用具「中年の門番」

の製造・販売権及び既存の在庫の寄贈を受けた。

④ アピモンディアとの連携

2024年度アピモンディア会費を納付した。なお、次回以降の国際養蜂会議の開催については以下のとおり。

- ・第49回（2025年）スカンジナビア3国【デンマーク、ノルウェー、スウェーデン】
・コペンハーゲン（デンマーク）
- ・第50回（2027年）タンザニア・アルーシャ

⑤ その他組織強化のための活動

ア. 施設賠償等総合補償保険

養蜂に関する保険は、一般社団法人日本養蜂協会が保険契約者となる団体契約であり、加入できるのは、加入申込人・記名被保険者が日蜂協会員に限られる。保険の内容、加入者は以下のとおりとなった。

- ・ 蜂箱の所有・使用・管理に起因する賠償責任（施設所有（管理）者賠償責任保険）
- ・ 製品の製造、販売に起因する賠償責任（生産物賠償責任保険）
- ・ 養蜂箱に生じた偶然な事故による損害補償（動産総合保険）
- ・ 令和6年度の加入者は132件（5年度は139件）

イ. 表彰行事の実施

永年養蜂業界の発展に貢献された方に対して、第83回通常総会（令和6年2月）の場等において表彰規程に基づき、会長感謝状等を贈呈した。

【中央表彰】

岩手県：土屋 勲氏 元日蜂協理事・監事

【地方表彰】

北海道：太田忠雄氏	現道協会理事
福島県：三浦豊一氏	現県協会理事
栃木県：大橋幸夫氏	元県組合長
和歌山県：坂東周市氏	元県協会理事
広島県：尾崎 進氏	現県組合理事
福岡県：故重松孝伸氏	元県副組合長
佐賀県：百武正幸氏	元県組合長
熊本県：鬼塚富士朋氏	元県組合理事
鹿児島県：加藤 栄氏	元県協会長
鹿児島県：長畑義輝氏	元県協会理事

【会長感謝状】

今中睦美氏（京都府：令和5年度黄綬褒章受章）

中村源次郎氏（岐阜県：令和6年度旭日双光章受章）

5. 蜂製品の安定供給事業

(1) 蜂製品の検査データの収集

① 蜂蜜中の残留農薬モニタリング

日本中央競馬会畜産振興事業において、蜂蜜中残留農薬関連情報収集・活用促進事業として、令和6年度分の50件について検体を収集した。

② 旧農薬工業会による農薬の再評価に係る蜂蜜に対する影響評価分析事業

旧農薬工業会（現クロップライフジャパン）に農薬の再評価の際に蜂蜜に対する影響分析等の実施を要請したところ、当協会に検体収集等を委託することとなり、昨年に引き続き令和6年度も年間30検体の収集等を行った。

(2) 養蜂関係団体等との意見交換

① ISO（国際標準化機構）における蜂蜜等の規格作成について

ISOの蜂蜜等に関する規格を作成している委員会事務局の李璇氏（中国）が1月16日（火）に来日し、当協会の沖常務、谷口業務課長及び一般社団法人全国はちみつ公正取引協議会の藤井副会長、奥野専務と意見交換を行った。

② 韓国農村振興庁国立農業科学院

10月17日に日蜂協事務局に韓国の行政機関である農村振興庁国立農業科学院一行が訪問され、沖常務、谷口業務課長と懇談を行った。

③ 駐日スロベニア共和国大使館主催「BEE×テクノロジー」

12月12日に東京都千代田区3×3 Lab Futureで開催され、沖常務、岩橋主事が参加した。

④ 一般社団法人全国はちみつ公正取引協議会

12月18日に一般社団法人全国はちみつ公正取引協議会青年部主催の情報交換会が開催され、羽佐田副会長、柳下副会長、沖常務が参加した。

⑤ 蜂蜜の品質向上及び蜂蜜の普及を促進する共進会への支援

会員団体からの要請により、蜂蜜の品質向上等のための品評会において、優秀な出品物に対して「日本養蜂協会会長賞」を授与した。

第71回名古屋市農産物品評会（7月11日）

第47回京都府はちみつ品評会（8月2日）

第19回大阪府はちみつ品評会（8月8日）

第40回福島県はちみつ品評会（8月27日）

第28回群馬県蜂蜜品質向上共励会（10月17日）

第5回岩手県はちみつ品評会（10月23日）

第 43 回埼玉県はちみつ共進会（10 月 24 日）

第 34 回岐阜県はちみつ共進会（10 月 24 日）

第 12 回青森県はちみつ品評会（11 月 1 日）

6. 蜜源・蜜蜂安定供給事業

（1）蜜源保護増殖等対策

蜜源の保護増殖を行うことにより、養蜂振興と蜂製品の安定供給を図った。

① レンゲ種子、ヘアリーベッチ種子、菜種種子等の幹旋について

蜜源確保のため、レンゲ種子、ヘアリーベッチ種子、菜種種子（キザキノナタネ）、ナナシキブ（暖地向け菜種種子）、寒冷地向けヘアリーベッチ種子、ビービーツリー苗木の幹旋配布を行った。なお、公益目的支出計画の終了に伴い、菜種種子（キザキノナタネ）、ヘアリーベッチ種子の無償配布については、中止することとした。

② 蜜源樹木利用促進技術の普及

令和 6 年度地方競馬全国協会畜産振興補助事業で蜜源植物安定生産技術実証・普及事業を実施し、苗木でない蜜源樹木を移植する技術の普及を図るため、栃木県でエゴノキの植樹を行った。

（2）蜜源植物の病虫害被害軽減対策

令和 6 年度地方競馬全国協会畜産振興事業で蜜源植物安定生産技術実証・普及事業を実施し、レンゲを食害している外来害虫アルファルファタコゾウムシの駆除及び被害軽減に向けた試験を実施した。

7 蜂病・薬害等対策事業

（1）蜂病等対策

① 衛生等対策

ア. 酸化エチレンの自主管理計画達成状況の環境省への報告について

環境省から通知された酸化エチレン排出抑制への対応をふまえ、エキガード使用者から令和 5 年 1 月～12 月のエキガード使用による自主管理実施状況の報告を受け、日蜂協において取りまとめを行い、令和 6 年 6 月 20 日付で酸化エチレン排出実態報告書を環境省に提出した。自主管理計画の目標年度は令和 7 年末とするが、令和 8 年以降については在庫数量等を考慮して検討した。

イ. 酸化エチレンに代替する消毒方法の検討

令和 6 年度養蜂等振興強化推進事業により酸化エチレンに代替する消毒方法として、ウルトラファインバブルを含む微酸性次亜塩素酸水及びグルタルアルデヒド製剤について検討した。

② 腐蛆病予防薬使用後の追跡調査

平成3年以降のみつばち腐蛆病発生状況は下記のとおりである。

年次	発生群数	年次	発生群数
平成3	547	平成20	372
平成4	391	平成21	266
平成5	546	平成22	96
平成6	657	平成23	175
平成7	752	平成24	127
平成8	400	平成25	230
平成9	511	平成26	168
平成10	238	平成27	130
平成11	350	平成28	89
平成12	200	平成29	74
平成13	470	平成30	135
平成14	710	令和元	104
平成15	167	令和2	127
平成16	247	令和3	110
平成17	320	令和4	106
平成18	247	令和5	56
平成19	280	令和6	16

※令和6年次の発生群数は、9月分まで

(農水省ホームページ「監視伝染病の発生状況」より)

(2) 薬害対策

① 蜜蜂被害事例調査への協力

農林水産省の「蜜蜂の農薬被害事例に関する調査・報告」が平成27年度で終了し、「蜜蜂被害事例調査（平成25年度～27年度）の結果及び今後の取組について」の公表があった。その後も農薬の関与が疑われる被害事例について、継続して平成28年度から令和5年度まで調査が行われてきた。

令和6年度も農林水産省消費・安全局農産安全管理課長及び畜産局畜産振興課長より令和4年度と同様の協力依頼通知（令和6年6月28日付）があったので、農薬によると思われる蜜蜂被害が発生した場合は、都道府県の畜産部局及び農薬指導部局（その所属又は関係する部署・出先機関）に連絡し、その後の対応は、行政機関の指示に従うよう都道府県団体に協力依頼する。

また、同時に、日蜂協へも『蜜蜂被害報告書』にて連絡をするよう、会員へ通知した。

② 農薬によると思われる蜜蜂の斃死分析調査について

会員傘下養蜂家において農薬によると思われる蜜蜂の斃死があった場合、昨年に続き令和6年も日蜂協の予算で年間3件の分析を行った。

③ 松くい虫防除による蜂群の被害防止対策

本年度の松くい虫防除対策事業の実績は次のとおりである。

◎令和6年度（計画）

防除実施面積（全国）…………… 11,279ha（11,866ha）

（ ）内は前年度確定実績（農林水産省ホームページ「農林水産航空事業」より）

(3) 健康対策

ミツバチ用健康飼料スーパービーⅡの販売開始

従来より日蜂協ではミツバチ用健康飼料として液体を凍結したスーパービーを幹旋してきたが、販売元のバイオプロジェクト社によりフリーズドライ製剤であるスーパービーⅡが開発されたため、従来のスーパービーに代えてスーパービーⅡを幹旋することとした。

8 その他

(1) 農林水産省及び環境省、消費者庁との打ち合わせ等について

養蜂及び蜂蜜に関わる問題点等について意見交換等を重ねた。

- ① 5月1日 農林水産省畜産局畜産振興課及び農産局園芸作物課との打ち合わせ（沖常務）

花粉交配用蜜蜂等に関する件について

- ② 5月22日 農林水産省畜産局食肉鶏卵課訪問（沖常務）

蜂蜜の表示等に関する件について

- ③ 5月29日 環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室による新「外来種被害防止行動計画」に係る説明会（ウェブ）（沖常務）

- ④ 6月5日 消費者庁食品表示課訪問（沖常務）

蜂蜜の表示等に関する件について

- ⑤ 7月10日 消費者庁表示対策課訪問（沖常務）

蜂蜜の表示等に関する件について

- ⑥ 7月17日 農林水産省畜産局畜産振興課及び消費・安全局畜水産安全管理課との打ち合わせ（沖常務）

タイラン水溶散について

- ⑦ 10月30日 農林水産省畜産局畜産振興課との打ち合わせ（沖常務）

地全協事業に関する件について

(2) 自由民主党養蜂議員連盟関係打合せ・会議

令和2年に改組して新たに設立された養蜂議員連盟について、総会への参加及び関係者と打ち合わせ等を行った。

- ① 2月19日 森山最高顧問、藤木養蜂議員連盟事務局長を訪問、自由民主党本部政務調査会及び農林水産省畜産局畜産振興課との打ち合わせ（沖常務）
- ② 2月21日 第8回自由民主党養蜂議員連盟総会出席（羽佐田副会長、柳下副会長、沖常務、水谷理事、中田理事、斉藤理事、石塚理事、正札理事、光源寺理事、西岡理事、長沼監事、枝次監事）
- ③ 6月5日 藤木養蜂議員連盟事務局長を訪問（沖常務）
- ④ 6月11日 自由民主党本部政務調査会及び農林水産省畜産局畜産振興課との打ち合わせ（沖常務）
- ⑤ 6月13日 第9回自由民主党養蜂議員連盟総会出席（柳下副会長、沖常務、水谷理事、中田理事、西岡理事、枝次監事）

(3) 令和6年能登半島地震による被災者支援

1月1日に発生した令和6年能登半島地震の被災者支援のため、令和6年総会の開催場所での募金を行うとともに、日蜂協名義の義援金口座を開設し、義援金の受け入れを開始した。11月末に受け入れを中止し、石川県会員に寄贈することを決定した。

(4) ウクライナ養蜂への支援

ロシアと紛争中のウクライナの養蜂の支援のため、日蜂協名義の口座を開設し、支援金の受け入れを継続した。

(5) 令和6年度中央畜産技術研修会「養蜂」に係るアンケートへの協力

農林水産省より令和6年度中央畜産技術研修会「養蜂」に係るアンケートへの協力依頼があったので、都道府県会員団体あてに通知し、アンケートを回収して協力した。